

平成20年8月21日

左京区 伝統行事 ネットワーク かわらばん

第7号 発行：左京区役所区民部総務課

左京区役所では、区内に数多く守り伝えられている伝統行事を将来にわたって保存・継承するとともに、その魅力を広く発信し観光振興に役立てるための取組を進めています。今年度は次の2つを柱に取り組みます。

●伝統行事のシンポジウム の開催

今年度は、「左京区内の伝統行事の保存会等によるネットワーク会議」での取組を広く発信するため、市民公開型シンポジウムを開催する予定です。7月29日に第9回のネットワーク会議を開催しました。

[会議の様子はこちら](#)

◆左京に息づく伝統文化の 保存・継承と観光振興

DVD「左京を彩る伝統絵巻」の貸出しやイベント事業等での上映、ホームページ上での動画発信を引き続き行います。また、「左京伝統行事ぐるり旅～歳時記・マップ～」を広く配布し、更なる観光振興を図ります。

●第9回 左京区内の伝統行事の保存会等によるネットワーク会議

・日時：平成20年7月29日（火）午前10時～11時40分

・場所：左京区役所 第2会議室

講演「洛北を中心とした盆の行事」なかむらおさむ大阪府立大学教授 中村 治 さん



【中村教授のプロフィール】

- ・大阪府立大学 人間社会学部 教授
- ・西洋思想史・環境思想 専攻
- ・著書：『洛北岩倉』、『洛北八瀬』、『あゝころ 京都の暮し』、『京都洛北の原風景』など

○洛北地域の盆の行事（墓参り、精霊迎え、精霊の接待、精霊送り、盆踊り、地藏盆など）を調べてみると、同じ洛北でも地域や家によって行事をする日程や行事のやり方は様々で、多様性がある。

○洛北では、8月7日が墓参りの日である地域が多いが、よく調べると、8/1～8/7の間で墓参りの日が異なっている。これは、近隣の村から嫁いできたお嫁さんが実家の墓参りにも行けるようにしたためと思われる。

○岩倉、一乗寺、上高野、北白川、修学院、松ヶ崎など農村の性格が強い地域では、盆よりも墓参りの日に一族が集まり食事をする傾向がある。これは草取りが終わる頃にあたる墓参りの日に作業の慰労をかねて集まったからだと思われる。

○京都で精霊迎えというと六道珍皇寺（ろくどうちんこうじ）や千本閻魔堂（えんまどう）で迎えることが知られているが、洛北では用水路や墓道で迎え火を焚いて精霊迎えをする家がみられる。

○精霊の接待は、お供え物や盆棚の数、まつり方が地域や家によっても異なるが、接待期間も13日から16日までの間で期間の相違がみられる。例えば、岩倉では「一夜泊まりで流された」といわれるように14日と15日だけ接待して15日には送り出す家が多いようである。

○岩倉や八瀬ではお嫁さんが16日から実家へ1週間～1ヶ月ほど戻る「洗濯」や「藪入り」といった習わしがあったため、15日に精霊送りを済ませて早く帰れるように配慮されていたと思われる。

[裏面へ](#)

- 大原では、家から出たものが14日夕方に集まり、お供えのごはんに麻幹の箸を一膳ずつさす。
- 仏壇の前に盆棚を置いてお供えをするのとは別に、畳の上や、縁側の軒先に吊るした棚にお供えをする家があるが、これは無縁の精霊（餓鬼・無縁さん）に対する施しだといわれている。
- 精霊送りは、川岸で行われる地域が多く、例えば八瀬では、川の中の比較的大きい石の上にお供え物を置き、お供え物の脇に石を3～7段ぐらい積み上げて石塔をつくり、精霊を送っている。
- 盆踊りは、市原ハモハ踊・鉄扇や松ヶ崎題目踊・さし踊のような念仏踊りや風流の系統をくむ踊りが一般的であったようだが、昭和初期には洛北地域でも江州音頭（ごうしゅうおんど）が一気に広まった。
- 久多花笠踊や八瀬赦免地踊りみられる灯籠を頭にのせて踊る灯籠踊りが、かつては岩倉でも行われていたが、おそらく大正時代には見られなくなった。
- 地藏盆は、ももとは年寄りが集まって念仏を唱える行事であったが、岩倉では昭和30年代、静原では昭和40年代以降、現在のように子供を楽しませる行事として定着したようである。

質疑応答 意見交換・情報交換

【八瀬郷土文化保存会】八瀬では墓参りを7日に行うのが習わしだが、最近では地元を出て仕事をする者が参加しやすい7日より前の土日に墓参りをすることも多くなった。

【上高野念仏供養踊保存会】盆になすび、きゅうりなどをお供えするのは、それが地元で採れる旬の作物であり、それしか手に入らなかったからである。



【市原ハモハ尼講中】鉄扇に比べると江州音頭は踊りが派手で楽しいこともあり、誰もが江州音頭ばかり踊るようになった。そのため、市原では盆踊りとして、ハモハ踊、鉄扇、江州音頭の3つを踊っているが、ハモハ踊と鉄扇の保存・継承には苦勞している。

【一乗寺八大神社剣鉾保存会・一乗寺郷土芸能保存会】ながし団子ではなく丁稚羊羹（でっちようかん）をお供えにするのは一乗寺と修学院の特徴であるようだが、それは近江の坂本と往来があったからだと思われる。

【中村教授】盆の行事は、地域の農業や暮らしに深く根ざしており、洛北でも地域独自の行事が盛んに行われていたが、昭和時代末頃からしだいに衰退し、地域のつながりが薄れ、生活が変化して、盆の行事

にぎわいを失い、核家族化が進んで、各家の習わしが消えつつある。年寄り世代が、今のうちに、行事のやり方を文書や写真に記録して残すとともに、若い世代に暮らしに根ざした行事を教えて、保存と継承に取り組んでいかないと、地域で受け継がれてきた行事や風習を志のある人が継承しようと思っても、継承できないことになるであろう。

参加：14団体20名

一乗寺八大神社剣鉾保存会、一乗寺郷土芸能保存会、市原ハモハ尼講中、石座神社奉賛会、上高野念仏供養踊保存会、久多花笠踊保存会、久多宮の町松上げ保存会、久多山の神・お弓保存会、鞍馬火祭保存会、大文字保存会、松ヶ崎妙法保存会、松ヶ崎題目踊・さし踊保存会、八瀬郷土文化保存会、吉田剣鉾保存会

◆「左京伝統行事ぐるり旅～歳時記・マップ～」配布しています。



左京区役所では、ネットワーク会議の保存会・団体の皆様方の協力の下、24の伝統行事の開催時期、開催場所、行事や地域にまつわるミニ情報などを掲載した「左京伝統行事ぐるり旅～歳時記・マップ～」を作成し、区役所や出張所、区内の施設等で広く配布しています。「左京区民ふれあいまつり2008」



左京区民ふれあいまつり2008

（7月27日・みやこめっせ）では、左京区役所のコーナーにおいて「左京検定」と「左京区手作り輪投げ」の賞品として多くの皆さんにプレゼントしましたが、非常に好評でした。今後も伝統行事のDVDと歳時記・マップを活用した観光振興に取り組んでまいります。